

鹿児島湾から得られたタチウオ科魚類 ユメタチモドキ *Evoxymetopon taeniatum*

畑 晴陵¹・原口百合子²・本村浩之²

¹ 〒 890-0056 鹿児島県鹿児島市下荒田 4-50-20 鹿児島大学総合研究博物館（水産学研究科）

² 〒 890-0065 鹿児島県鹿児島市郡元 1-21-30 鹿児島大学総合研究博物館

はじめに

タチウオ科ユメタチモドキ属 *Evoxymetopon* は両眼間隔域が隆起縁を形成し、眼は頭部側面に位置すること、背鰭に欠刻がないこと、円盤状の腹鰭と臀鰭第1棘条および二叉型の尾鰭を有するなどの特徴をもち (Nakamura and Parin, 1993; Fricke et al. 2014), ヒレナガオオユメタチ *E. macrophthalmum* Chakraborty, Yoshino and Iwatsuki, 2006, *E. moricheni* Fricke et al., 2014, ヒレナガユメタチ *E. poeyi* Günther, 1887, ユメタチモドキ *E. taeniatum* Gill, 1863 の4種が有効種とされている (Chakraborty et al., 2006; Fricke et al., 2014).

ユメタチモドキはこれまで国内において、新潟県、千葉県、静岡県、和歌山県、および東シナ海から記録されていた (中坊・土居内, 2013; 池田・中坊, 2015). 2014年4月20日に鹿児島県指宿市沖の鹿児島湾湾口部から2個体のユメタチモドキが定置網により採集された。これらは鹿児島県における本種の標本に基づく初めての記録となるため、ここに報告する。

材料と方法

計数・計測方法は崎山ほか (2011) にしたがった。標準体長は体長と表記し、体各部の計測はデ

ジタルノギスを用いて0.1 mmまでおこなった。生鮮時の体色の記載は、固定前に撮影された鹿児島県産の2標本(KAUM-I. 60668, 60669)のカラー写真に基づく。ユメタチモドキの学名は中坊・土居内 (2013) にしたがった。標本の作製、登録、撮影、固定方法は本村 (2009) に準拠した。本報告に用いた標本は、鹿児島大学総合研究博物館に保管されており、上記の生鮮時の写真は同館のデータベースに登録されている。本報告中で用いられている研究機関略号は以下の通り。KAUM—鹿児島大学総合研究博物館；KPM—神奈川県立生命の星・地球博物館；WMNH-PIS-WW—和歌山県立自然博物館池田魚類コレクション。

結果と考察

Evoxymetopon taeniatum Gill, 1863

ユメタチモドキ (Fig. 1; Table 1)

標本 2個体 (体長 691.0–705.0 mm) : KAUM-I. 60668, 体長 691.0 mm, KAUM-I. 60669, 体長 705.0 mm, 鹿児島県指宿市開聞川尻沖 (31°09'41"N, 130°32'53"E), 水深 80–90 m, 2014年4月20日, 定置網, 土田洋之。

記載 計数形質と体各部の体長に対する割合を Table 1 に示した。体は著しく細長く、側扁し、リボン状。体高は頭長の 66.8–66.9% と低く、胸鰭基部付近で最大。両眼間隔域は著しく突出するとともに隆起縁を形成し、吻端から背鰭起部にかけての体背面の傾斜は急である。体背縁は眼の上方から背鰭起部にかけて緩やかに折れ曲がる。背鰭基部の体背縁はほぼ直線上で、徐々に下降

Hata, H., Y. Haraguchi and H. Motomura. 2015. First records of *Evoxymetopon taeniatum* (Perciformes: Trichiuridae) from Kagoshima Prefecture, southern Japan. *Nature of Kagoshima* 41: 157–160.

✉ HH: the Kagoshima University Museum, 1–21–30 Korimoto, Kagoshima 890–0065, Japan (e-mail: k2795502@kadai.jp).

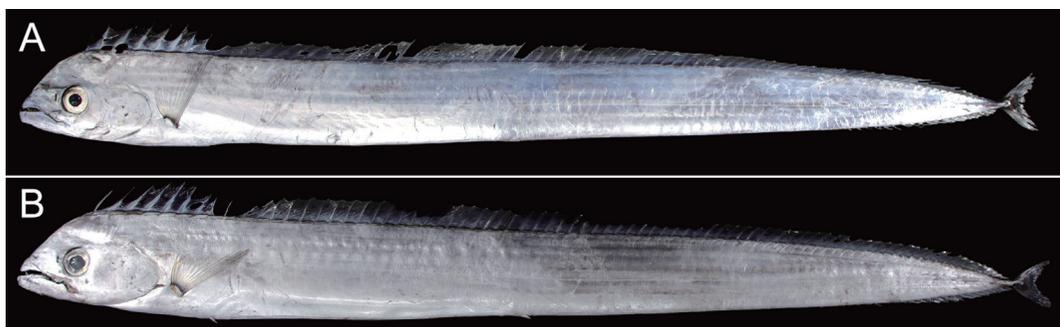


Fig. 1. Fresh specimens of *Evoxymetopon taeniatus*. A: KAUM-I. 60668, 691.0 mm standard length (SL); B: KAUM-I. 60669, 705.0 mm SL, Ibusuki, Kagoshima Bay, Japan.

Table 1. Counts and proportional measurements of *Evoxymetopon taeniatus* from Ibusuki, Kagoshima Bay, Japan.

	KAUM-I. 60668	KAUM-I. 60669
Standard length (SL ; mm)	691.0	705.0
Counts		
Dorsal-fin elements	81	80
Pectoral-fin rays	12	12
Pelvic-fin spines	1	1
External anal-fin rays	20	21
Caudal-fin rays	8 + 7	8 + 7
Gill rakers (upper + middle + lower)	8 + 1 + 16	7 + 1 + 17
Measurement (% SL)		
Total length	103.8	103.7
Pre-anus length	48.3	48.2
Head length	14.1	14.9
Snout length	4.9	5.2
Postorbital length	6.4	7.0
Preopercular length	2.2	2.4
Upper-jaw length	4.8	5.0
Body depth at pectoral-fin base	9.4	10.0
Body width at pectoral-fin base	2.5	2.4
Body depth at anus	7.8	8.5
Body width at anus	1.6	1.9
First dorsal-spine length	broken	3.1
Pre-dorsal-fin length	8.7	9.4
Dorsal-fin base length	91.3	92.2
Orbit diameter	2.8	2.6
Suborbital width	1.3	1.3
Interorbital width	2.3	2.3
Depth above lateral-line at anus	4.4	4.8
Depth below lateral-line at anus	3.7	3.9
Pre-pectoral-fin length	15.2	15.8
Pectoral-fin base	1.3	1.5
Length of pectoral fin	8.2	8.3
Pre-pelvic-fin length	18.7	19.6
Length of pelvic fin	0.9	0.9
Pre-anal-fin length	49.9	50.6
Anal-fin base length	48.2	48.2
Depth of caudal peduncle	0.6	0.7
Length of caudal peduncle	2.2	2.4
Tail length	49.6	49.8

する。体腹縁は下顎先端から腹鰭起部にかけて緩やかに膨らみ、腹鰭起部から臀鰭基底後端にかけてはほぼ直線状。尾柄部の体背縁および体腹縁は体軸と平行で直線状。尾柄は細長く、尾柄高は尾柄長の27.8–29.1%。背鰭起部は瞳孔後縁直上に位置し、背鰭前長は頭長の61.9–63.3%。背鰭最後軟条基底部の後端は臀鰭最後軟条基底部の後端直上に位置する。背鰭外縁に欠刻はない。胸鰭起部は鰓蓋後縁よりも後方、腹鰭起部よりも前方、背鰭第5–6軟条起部直下に位置する。胸鰭基底後端は胸鰭起部よりも下方、腹鰭起部よりも前方、背鰭第7–8軟条起部直下に位置する。胸鰭上縁は中央部で凹み、胸鰭前縁は後縁よりも短い。胸鰭軟条は最前と最後のもののみ不分枝。背鰭最後軟条の後端は体背縁に達するか、僅かに達しない。腹鰭は薄い円盤状で、前後方向に長い楕円形を呈し、左右の腹鰭は近接する。腹鰭起部は背鰭第8軟条起部直下またはそれよりもわずかに後方に位置する。臀鰭起部は背鰭第31軟条起部直下に位置する。臀鰭第1棘条は薄い円盤状で、前後方向に長い楕円形。倒した臀鰭第1棘条の後端は背鰭第32軟条起部直下に達する。臀鰭は前方に倒すと背鰭第30軟条起部直下に達するが、総排泄孔には達しない。背鰭と臀鰭の最後の軟条は鱗膜で尾柄部とつながる。背鰭と臀鰭の軟条はすべて不分枝。尾鰭は小さく二叉型で、湾入する。総排泄孔は正円形で臀鰭起部直前に開孔し、前縁は背鰭第30軟条起部直下に位置する。眼と瞳孔は正円

に近い円形。鼻孔は1対で、眼の前方に位置し、背腹方向に細長い三角形。上顎後端は眼の前縁直下に位置する。吻端は尖り、下顎は突出する。口は端位で、口裂は下顎先端から上顎後端にかけて上方に曲がる弧を描く。前鰓蓋骨は皮下に埋没する。前鰓蓋骨と主鰓蓋骨の後縁はともに円滑。鰓耙は短い針状で、先端は尖る。擬鰓を有する。上顎と下顎には1列の鋭い円錐歯が並ぶ。上顎先端には3対の倒すことのできない鋭い牙状の歯をそなえる。側線は完全で、鰓蓋後縁上方から背鰭第11または12軟条起部直下付近まで緩やかに下降し、その後尾柄にかけて直走する。

色彩 生鮮時の色彩 一体側、腹鰭および臀鰭第1軟条は一樣に白金色。背鰭第8軟条よりも前方の背鰭鰭膜上部は黒色で、第8軟条よりも後方は鰭条、鰭膜ともにやや白色がかった透明。胸鰭各軟条は暗い黄色がかった透明。臀鰭はやや白色がかった透明。尾鰭は白色がかった透明で、基底部は黒色。虹彩は金色がかった白金色で、瞳孔は青みがかった黒色。

固定後の色彩 一体側は一樣に鈍い銀色となる。各鰭の棘条と軟条は乳白色となる。

分布 韓国巨済島、台湾東港、および西大西洋から知られている (Gill, 1863; Mori, 1952; 中村, 1984; Nakamura and Parin, 1993; Kim et al., 2005; 中坊・土居内, 2013.)。日本国内では新潟県青海 (本間ほか, 1984)、静岡県川奈、千葉県館山沖 (崎山ほか, 2011)、和歌山県白浜 (池田・中坊, 2015)、東シナ海大陸棚縁辺・大陸斜面 (Shinohara et al., 2005; 山田ほか, 2007)、および鹿児島県 (本研究) から報告がある。

備考 鹿児島県産の標本は二叉型の尾鰭を有すること、円盤状の腹鰭と臀鰭棘条を有すること、眼は頭部側面に位置すること、背鰭条数が80–81であることなどの特徴が Nakamura and Parin (1993) や Fricke et al. (2014) の定義した *Evoxymetopon* 属の特徴と一致した。また、背鰭第1棘条が伸長しないこと、背鰭軟条数が80–81であること、鼻孔が三角形であること、背鰭起部が瞳孔後縁直上に位置すること、臀鰭起部は背鰭第31軟条起部直下に位置すること、第1鰓弓下

枝上の鰓耙数が16–17であること、背鰭前長が頭長の61.9–63.3%であることなどが Nakamura and Parin (1993) や Chakraborty et al (2006)、中坊・土居内 (2013)、Fricke et al. (2014) の報告した *E. taeniatum* の標徴とよく一致したため、本種と同意定された。本種は背鰭第1棘条が長く伸長しないこと、背鰭軟条数が90未満であること、背鰭起部が目の直上であること、臀鰭第1棘条起部が背鰭第30–32軟条起部直下に位置すること、第1鰓弓下枝鰓耙数が15–19であること、背鰭前長が頭長の60.5–63.4%であることなどから同属他種と識別される (Chakraborty et al., 2006; 中坊・土居内, 2013; Fricke et al., 2014)。

Evoxymetopon taeniatum はキューバから得られた1個体に基づき (Gill, 1863) によって記載された。その後、Mori (1952) は *E. taeniatum* を韓国の巨済島から報告するとともに本種に対し和名ユメタチモドキを提唱した。また、本間ほか (1984) は新潟県糸魚川市青海親不知沖から得られたユメタチモドキを報告し、これが日本沿岸からの初記録となった。また、Shinohara et al. (2005) はユメタチモドキ1個体を東シナ海の水深194–204 m から報告し、山田ほか (2007) はユメタチモドキが朝鮮海峡南部から東シナ海の大陸棚縁辺および大陸斜面に分布することを報告した。崎山ほか (2011) は静岡県伊東市川奈沖の定置網から得られた体長607.2 mmの1個体 (KPM-NI 23809) と千葉県館山市沖の水深90 m から延縄によって得られた体長1638.0 mmの1個体 (KPM-NI 26176) を報告した。池田・中坊 (2015) は和歌山県西牟婁郡白浜町沖の水深140 m から釣獲された体長1.04 mのユメタチモドキ1個体 (WMNH-PIS-WW 22003) を報告した。したがって、これまで鹿児島県内においてユメタチモドキは報告されておらず、記載標本は鹿児島県における本種の標本に基づく初めての記録となる。ユメタチモドキの鹿児島県での採集記録は、これまでの国内における本種の分布の空白域を埋めるものであり、本種が千葉県から東シナ海にかけて連続的に広く分布することを示唆する。

■ 謝辞

本報告を取りまとめるにあたり、標本の採集にはいおワールドかごしま水族館の土田洋之氏には多大なご協力を頂いた。鹿児島大学博物館魚類分類学研究室の小枝圭太氏には、本稿に対し適切な助言を数多く頂いた。原口百合子氏をはじめとする鹿児島大学総合研究博物館ボランティアの皆さまと同博物館魚類分類学研究室の皆さまには標本の作成・登録作業などを手伝って頂いた。これらの方々に謹んで感謝の意を表す。本研究は、鹿児島大学総合研究博物館の「鹿児島県産魚類の多様性調査プロジェクト」の一環として行われた。本研究の一部はJSPS科研費(19770067, 23580259, 24370041, 26241027, 26450265), JSPSアジア研究教育拠点事業「東南アジアにおける沿岸海洋学の研究教育ネットワーク構築」, 総合地球環境学研究所「東南アジア沿岸域におけるエリアケイパビリティの向上プロジェクト」, 国立科学博物館「日本の生物多様性ホットスポットの構造に関する研究プロジェクト」, 文部科学省特別経費—地域貢献機能の充実—「薩南諸島の生物多様性とその保全に関する教育研究拠点形成」, および鹿児島大学重点領域研究環境(生物多様性プロジェクト)学長裁量経費「奄美群島における生態系保全研究の推進」の援助を受けた。

■ 引用文献

- Chakraborty, A., Yoshino, T. and Iwatsuki, Y. 2006. A new species of scabbardfish, *Evoxymetopon macropthalmus* (Scombroidei: Trichiuridae), from Okinawa, Japan. *Ichthyological Research*, 53 (2): 137–142.
- Fricke, R., Golani, D. and Appelbaum-Golani, B. 2014. *Evoxy-metopon moricheni*, a new cutlassfish from the northern Red Sea (Teleostei: Trichiuridae). *Ichthyological Research*, 61 (3): 293–297.
- Gill, T. N. 1863. Synopsis of the family of lepituroids, and description of a remarkable new generic type. *Proceedings of the Academy of Natural Sciences of Philadelphia*, 15: 224–229.
- 本間義晴・水沢六郎・鈴木庄一郎・岡田成弘. 1984. 新潟県魚類目録補訂 (XI). *UO*, 34: 11–36.
- 池田博美・中坊徹次. 2015. 南日本太平洋沿岸の魚類. 東海大学出版部, 秦野. 597 pp.
- Kim, I. S., Choi, Y., Lee, C. L., Lee, Y. J., Kim, B. J. and Kim, J. H. 2005. *Illustrated book of Korean fishes*. Kyohak Publishing, Seoul. 615 pp.
- Mori, T. 1952. Check list of the fishes of Korea. *Memoirs of the Hyogo University of Agriculture*, 1 (3): 1–228.
- 本村浩之. 2009. 魚類標本の作製と管理マニュアル. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島. 70 pp. (<http://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/staff/motomura/dl.html>)
- 中坊徹次・土居内 龍. 2013. タチウオ科. Pp. 1644–1647, 2221–2224. 中坊徹次 (編), 日本産魚類検索 全種の同定, 第三版. 東海大学出版会, 秦野.
- 中村 泉. 1984. ユメタチモドキ *Evoxymetopon taeniatus* Poey. P. 220, pl. 224-E. 益田 一・尼岡邦夫・荒賀忠一・上野輝彌・吉野哲夫 (編), 日本産魚類大図鑑. 東海大学出版会, 東京.
- Nakamura, I. and Parin, N. 1993. FAO species catalogue. Snake mackerels and cutlassfishes of the world (families Gempylidae and Trichiuridae). *FAO Fisheries Synopsis*, 125 (15): i–viii + 1–136.
- 崎山直夫・瀬能 宏・御宿昭彦・神応義夫・伊藤寿茂. 2011. 相模湾初記録のナルトビエイ・ヒメイトマキエイ (エイ目トビエイ科), および稀種ユメタチモドキ (ズキ目タチウオ科) の同湾からの確実な記録について. 神奈川県自然史資料, 32: 101–108.
- Shinohara, G., Sato, T., Aonuma, Y., Horikawa, H., Matsuura, K., Nakabo, T. and Sato, K. 2005. Annotated checklist of deep-sea fishes from the waters around the Ryukyu Islands, Japan. *National Science Museum Monographs*, 29: 385–452.
- 山田梅芳・時村宗治・堀川博史・中坊徹次. 2007. 東シナ海・黄海の魚類誌. 東海大学出版会, 秦野. 1262 pp.